

北秋田市
地域おこし
協力隊

きたあきたの
魅力発掘

vol.36



吉田嵩之隊員

3年間お世話になりました

任期満了に伴い、2月をもって協力隊を退任します。短いようで長かった様な3年間でしたが、本当にたくさんの地域の皆さんに支えられてきたと思います。ご飯もお酒もたくさんご馳走してくれて、本当にありがとうございました！

「協力隊になって合川地区へ恩返しをしたい」という大学生の頃からの目標は、100%達成したとは言い難い結果です。協力隊になる背景として、

ギャップイヤーを作る事も目的の1つでしたが、それには十分な達成感を得る事ができませんでした。3年間の活動は、まさにこの期間にしかできない事だったと思いますし、移住希望者と触れ合う中で、自分自身の人生の目的意識も変化していきまし

特に何か大きな地域貢献や地

域起こしをしていないのも我ながら問題だなと思うのですが、それほど人間としても社会人としても「未熟であった」と、この期間で知ることでもできました。

北秋田市に来て後悔は一つもありません。今でも合川は大好きな第二のふるさとです。恩返しをしにきたつもりが、また、たくさんさんの恩に救われました。目まぐるしく何事も変化する時代ですが、この3年の反省点を必ず次に活かし、これからも北秋田市で頑張ります！

3年間お世話になりました。



お世話になった地域の皆さんと

私が見た北秋田

Kitaakita from My Eyes NO.53

ショーン
コリガン



3密を避けること

皆さん、こんにちは。今回の写真はご覧のとおり、阿仁スキー場で撮影したものです。例年に比べて遅くなっていますが、今シーズンの初滑りに際して撮ってみました。

コロナ禍のために自粛している友人をなかなか誘いにくく、行くタイミングをうまくはかることができず(子育ても思ったより忙しく!)にいる私が写っています。自分も必要以上に外出をしないように努力しているわけですが、ゲレンデぐらゐは密閉・密集・密接のどれも当てはまらないと思いました。

ちなみに「三つの密」を英語でいうと、「3Cs(スリー・シーズ)」になります。「密閉」「密集」「密接」の英訳(「Closed」「Crowded」「Close-contact」)

がそれぞれ「c」で始まるからです。その反対語(「Open」「Spread-out」「Separated」)は残念ながら、いくら考えても頭文字がきれいに揃ったものがないのですが、「開放」「散開」「隔絶」と言えば、気高くそびえ立つ森吉山の山頂にぴったりではないでしょうか？

どうしても、雪の多い今シーズン(Cs)ンを台無しにしたくないですね。



きりめく 玉手箱 Vol.8

伝える匠の守人編
伝統の色に染め
秋田八丈をつなぐ



今回は、秋田に伝わる伝統の染め織り「秋田八丈」を復活し今に伝える、綴子地区田子ヶ沢にある「ことむ工房」を紹介します。

秋田八丈と呼ばれる200年を超える秋田の伝統工芸の絹織物を今に伝える「ことむ工房」。現在も手作業で染め織り続けている奈良田登志子さんにお話を伺いました。

Qこのお仕事を始めようと思ったきっかけはなんですか？
「もともと生まれた場所が田子ヶ沢だったからで、実家の傍に工房を姉の協力で建てました。最初は秋田市で秋田八丈を作る会社で仕事していましたが、その会社が廃業となり、いったん秋田八丈が途絶えた時期もありまし

た。その後、先代の廃業した工場から、使える機械や道具などを全部譲り受けて工房をはじめました。秋田市で働いていたときは最初パートとして工場に就職しました。従業員は2、3人でしたが、先代の社長は仕事には厳格な方で大変な面もありましたが、染めの仕方から、織物として仕上げるところまで教わりました」

Q秋田八丈を製作する上で心がけていることはありますか？

「秋田八丈は草木染で使用する色が黄・黒・茶など決まっています。それを中心にして柄を考えなければいけないわけですが、色数が限られた中で、どのように柄を作るかを考えながら織る必要があるのです。それが大変です。また、最近では時代に合わせピンク色の糸もよく使うようになりました。また、絹糸を染める際に、どうしても染め具合が全く同じとはいえず、色指定の注文の際には、なかなか同じ色にならないので苦労します」

Qおすすめの商品はなんですか？

「特におすすめという商品はありません。小物などは反物の余った部分を使っていますが、色の染め具合、織り具合で、同じ種類の小物でも一つ一つ違うので、全く同じものがない状態です。逆に同じものがないとい



▲ことむ工房 代表 奈良田登志子さん(左)と畠山貴之さん(右)

秋田八丈「ことむ工房」

住所：北秋田市綴子字戸草沢29
☎：0186-62-0118 (FAX兼用)



うのも魅力がかもしれません
Qお客様にどのように利用してもらいたいですか？

「秋田八丈と聞くと敷居が高いものだと思うのですが、遠くから工房にくるお客さんの中には勇気を振り絞ってこられる方もいますが、そこまで難しく考えず見学も気軽に来てほしいと思っています。自分もお客さんが来てくれるのがとても楽しいし、一度見て色々な秋田八丈に触れてもらえればいいと思います」

Q今後の展望について

「経営者として事業を大きくしたいとは特に考えていませんが、元気なうちは自分たちが好きなように秋田八丈を織っていきたいと思っています。これを誰かに必ず伝えたいといけないうと難しく考えることなく、自分がやれるペースで続けていきたいと思っています」